

ヒヤリハット調査

うみらい財団「海のそなえ事務局」調査

調査期間 2024年8月16日～20日

調査概要

調査目的

- 公的データでは「どこで、何人が、どんな状況で溺れたか」という目に見えるデータは取られていたが、**「事故未済の体験」**に関するデータが集められてこなかった。
- 溺れ経験のある1,000人を対象にアンケート調査**を実施し、溺れた際の状況を聴取。
- 聴取データに基づき、溺れにつながる**ヒヤリハットを分析・整理。**

ハインリッヒの法則

1件の重大事故の背後には、重大事故に至らなかった29件の軽微な事故が隠れており、更にその背後には事故寸前だった300件の異常が潜んでいる

調査概要

- 調査期間：2024年8月16日～20日
- 調査手法：インターネット調査
- 調査対象者：自分もしくは同行者が海で溺れそうになった経験がある方
- 調査エリア：全国
- 回収サンプル数：1000サンプル

調査項目

- Q1. 溺れたときの状況
- Q2. 溺れそうになった人の年齢
- Q3. 溺れの経緯
- Q4. 溺れの原因
- Q5. 浮き具の有無

※ この他に調査対象者の属性等を把握する項目として、「性別」「年齢」「居住地」「自宅から海までの距離」「海に行く頻度」「溺れ経験の有無」についても質問。

回答者属性

	全体	北海道	東北地方	関東地方	中部地方	近畿地方	中国地方	四国地方	九州地方
男性10代	5	0	0	2	1	1	0	1	0
男性20代	42	0	4	16	5	7	1	2	7
男性30代	121	7	4	62	12	17	8	2	9
男性40代	130	6	3	47	16	28	9	5	16
男性50代	144	6	4	60	20	32	6	3	13
男性60代	144	6	8	70	18	23	7	6	6
女性10代	14	0	0	5	2	2	0	0	5
女性20代	61	1	4	18	9	18	1	2	8
女性30代	112	4	8	49	20	19	2	3	7
女性40代	84	2	7	35	11	9	4	2	14
女性50代	93	4	5	42	8	20	5	1	8
女性60代	52	2	3	20	7	6	6	2	6
全体	1002	38	50	426	129	182	49	29	99

サマリー

回答者属性

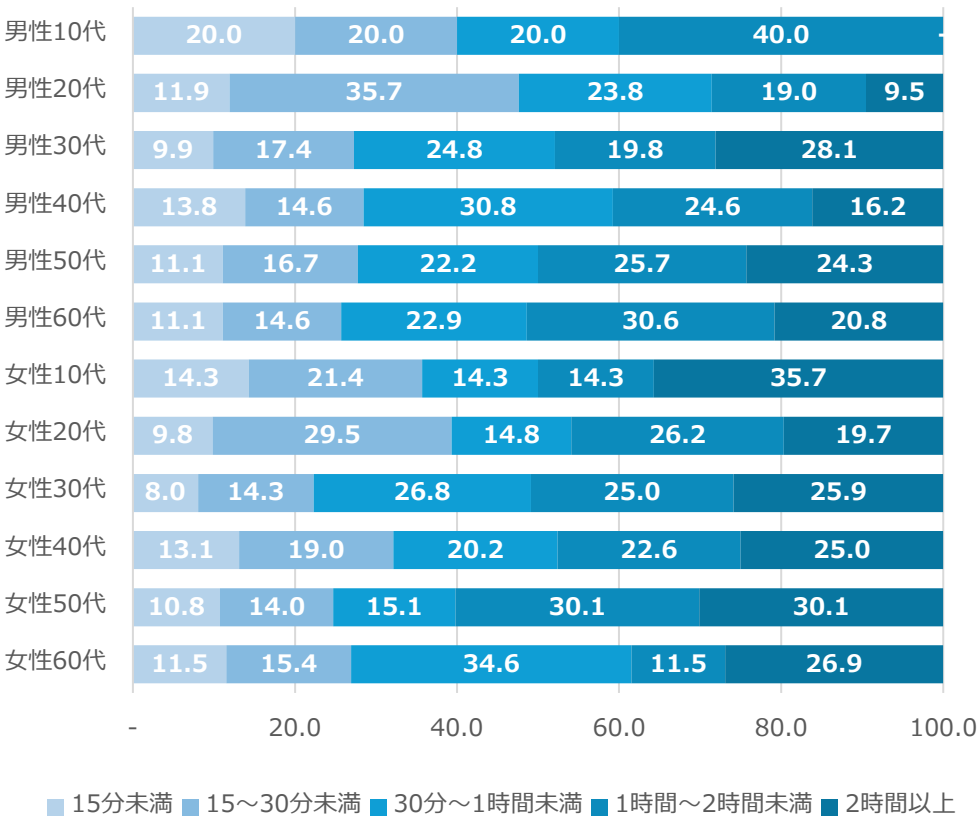
回答者の居住地から海までの距離は「1時間～2時間未満」が最も多く、次いで「30分～1時間未満」となった。海への訪問頻度を見ると、全体では「年に1回程度」が多いものの、男性20代は比較的頻繁に訪れる傾向にある一方、年齢層が上がるにつれて、海に行く頻度は減少する傾向が示された。

溺れについて

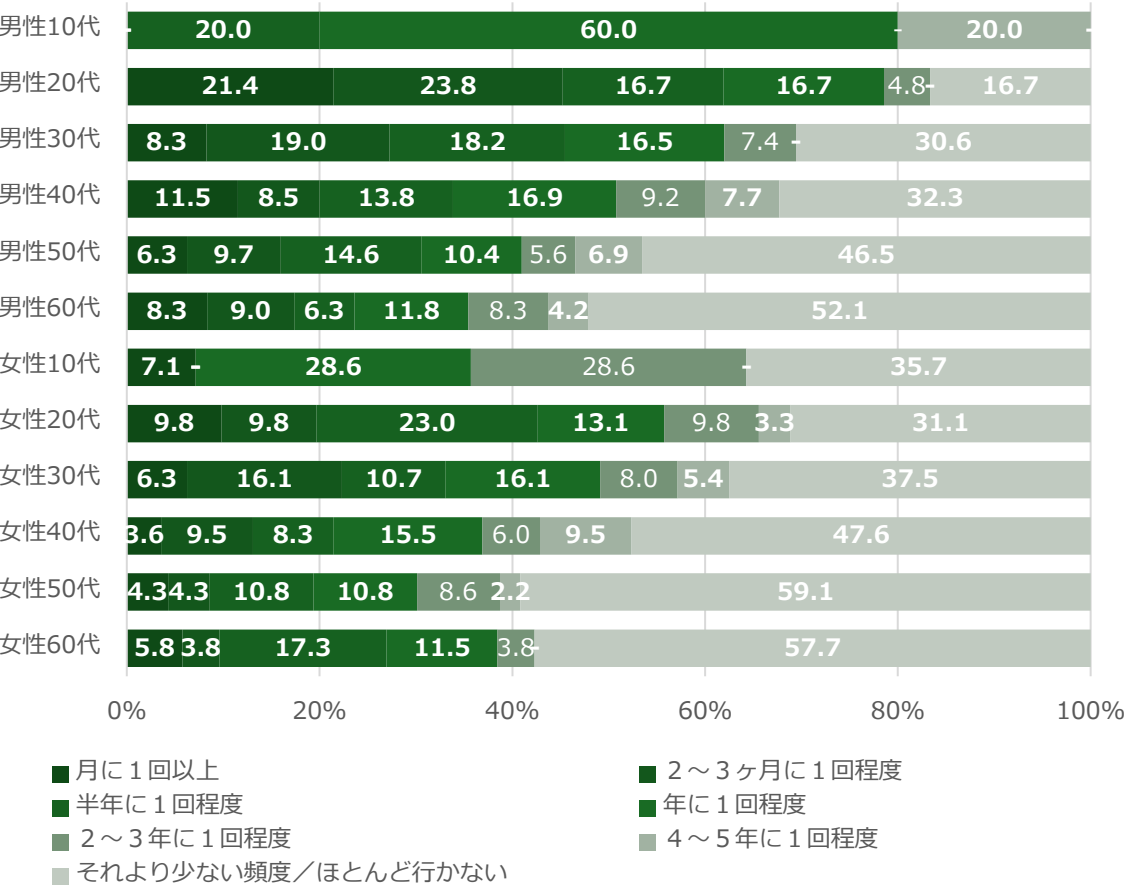
溺れそうになった状況としては、全年齢層で「波に巻かれた」が主要な要因であり、特に低年齢層で顕著となった。年齢の上昇に伴い「離岸流に流された」割合が増加し、高年齢層では「急深にはまった」ケースも一定数見られた。溺れそうになった原因としては「パニック」が最も多く、低年齢層で特にその傾向が強い一方、高年齢層では「疲労」や「泳力不足」といった身体的な要因や「飲酒」も要因として挙げられた。安全対策として重要な浮き具の所持状況については、全体的に「持っていない」割合が高く、年齢が上がるほどその傾向が強まることが明らかになった。

海への移動時間・海に行く頻度

現在お住まいの場所から、一番近い海まではどのくらいかかりますか



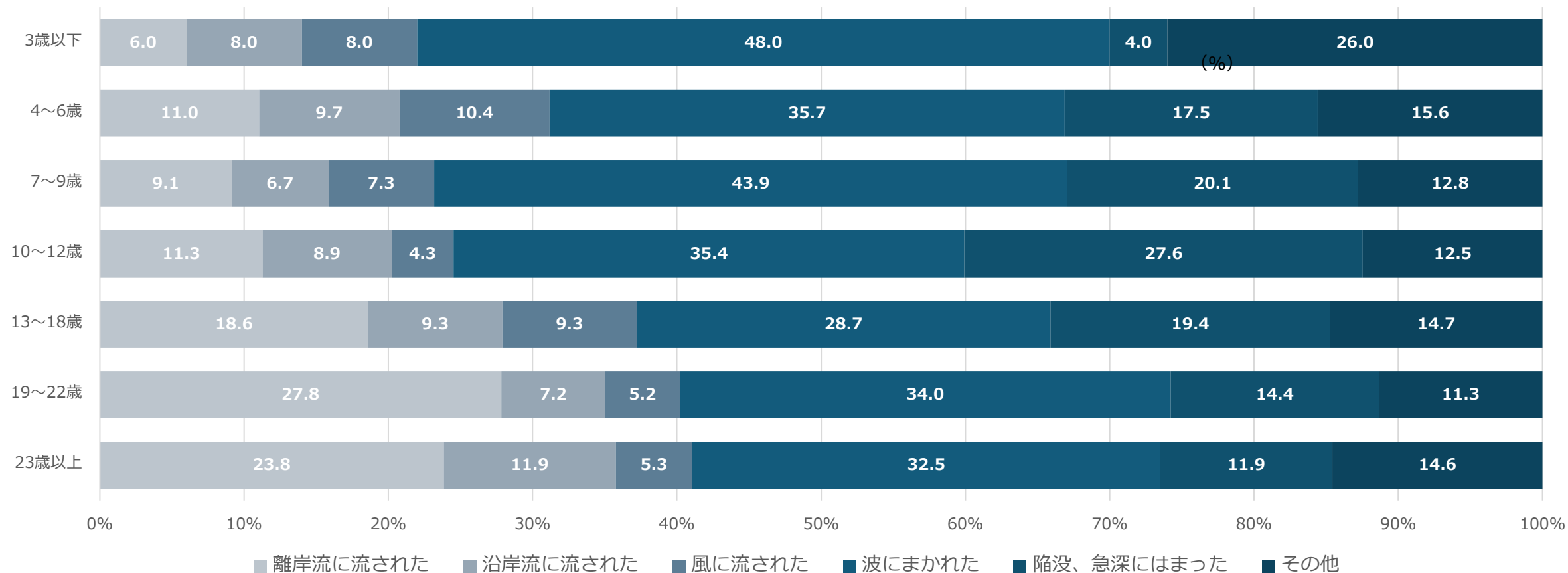
あなたが海に行く頻度を教えてください。(n=1002)



年代が上がるにつれて海に訪れる頻度は減少傾向に

溺れそうになったときのシチュエーション

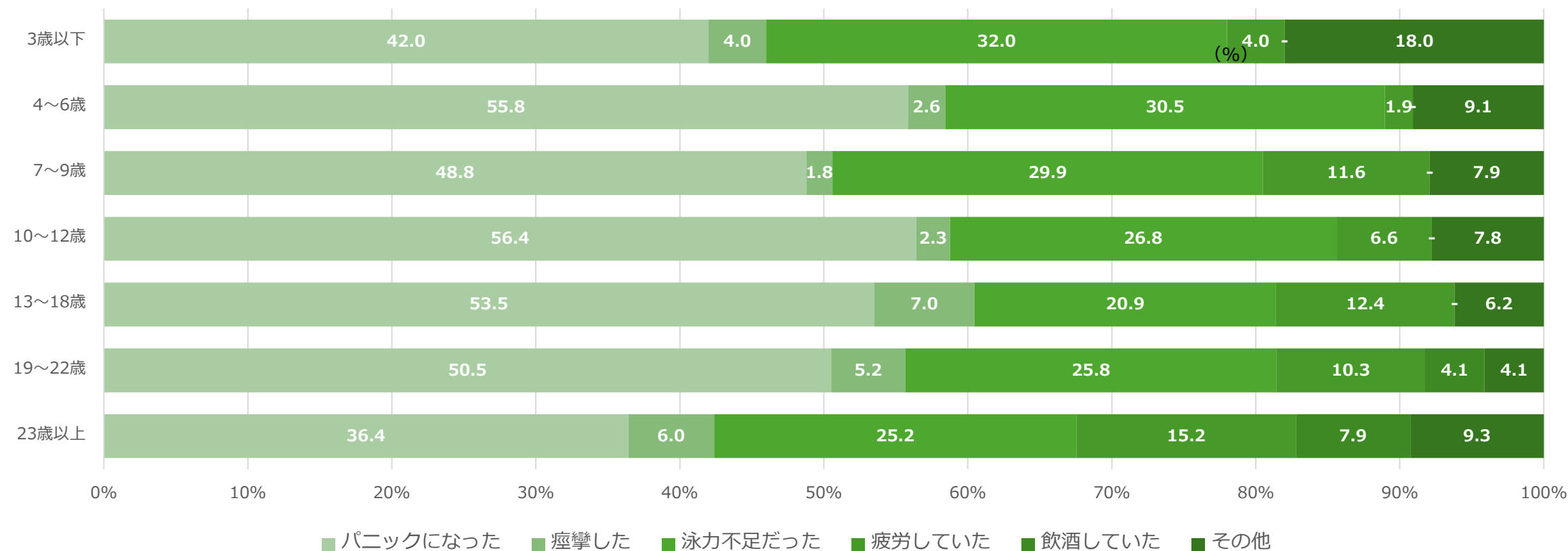
その人はどのようにして溺れそうになりましたか？最も当てはまるものを1つお選びください。（n=1002）



年齢ごとに溺れそうになった時のシチュエーションは異なっている

溺れそうになった原因

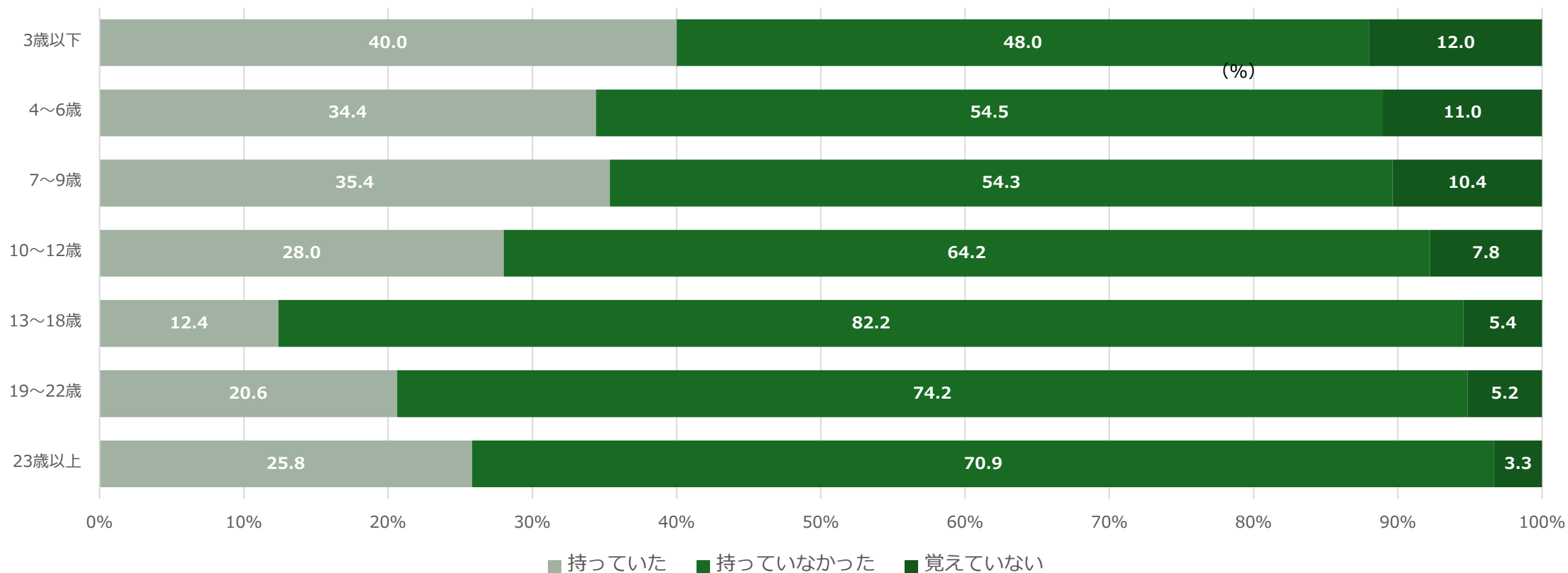
その人が溺れそうになった原因として最もあてはまるものを1つ選んでください。 (n=1002)



溺れそうになった原因は「パニックになった」が最も多い。

溺れそうになったときの浮き具の使用有無

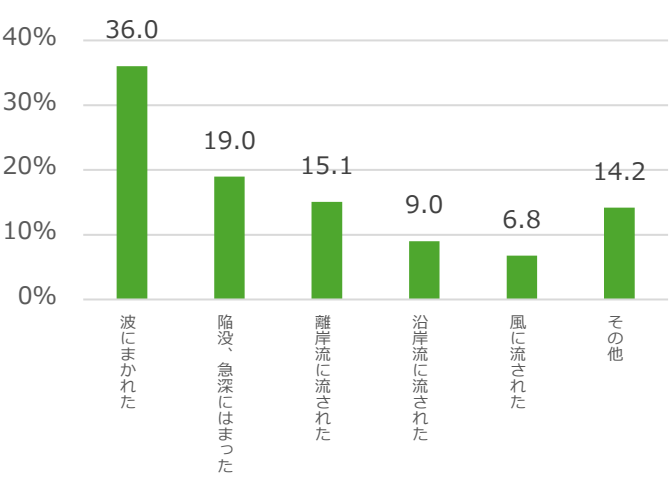
その時に溺れそうになった人は浮き輪やライフジャケット等の浮き具を持っていたか？（n=1002）



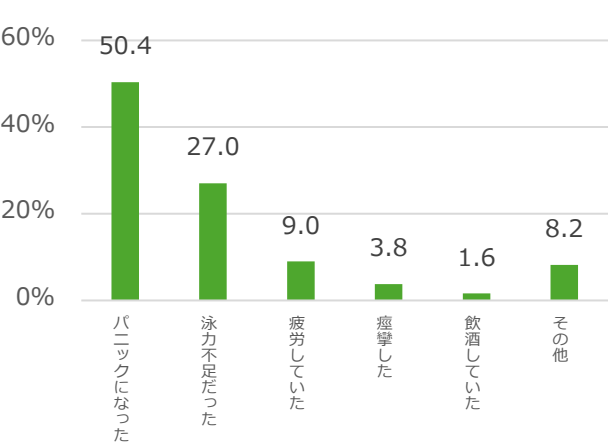
13～18歳では8割以上が浮き具を持っていない

フリーアンサーの中で使用されたキーワードの出現率

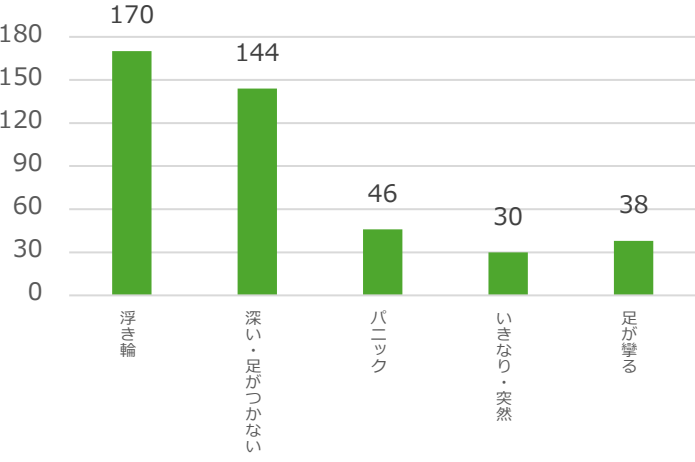
溺れのキッカケ N数：1002人



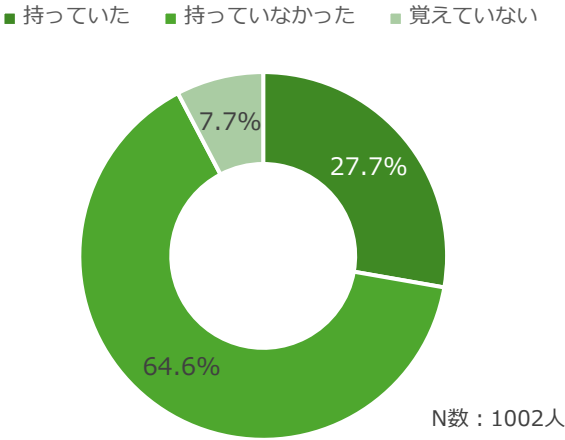
溺れの原因 N数：1002人



関連キーワードの件数 N数：1002人



浮き具有無



キーワード出現件数 TOP25

1	溺れる	258
2	波	218
3	足	212
4	子ども	199
5	泳	184
6	浮き輪	170
7	流される	142
8	深い・深み	109
9	沖	102
10	遊び	91
11	飲む	62
12	近く	62
13	入る	55
14	泳げない	51
15	パニック	46
16	つった	38
17	離岸流	33
18	ひっくり返る	33
19	流れる	28
20	落ちる	26
21	慌てる	21
22	目を離す	16
23	酒	13
24	引き潮	9
25	台風	8

関連キーワード出現数を見ると「浮き輪」が170件、
「深い・足がつかない」が144件で、溺れの要因として重要。

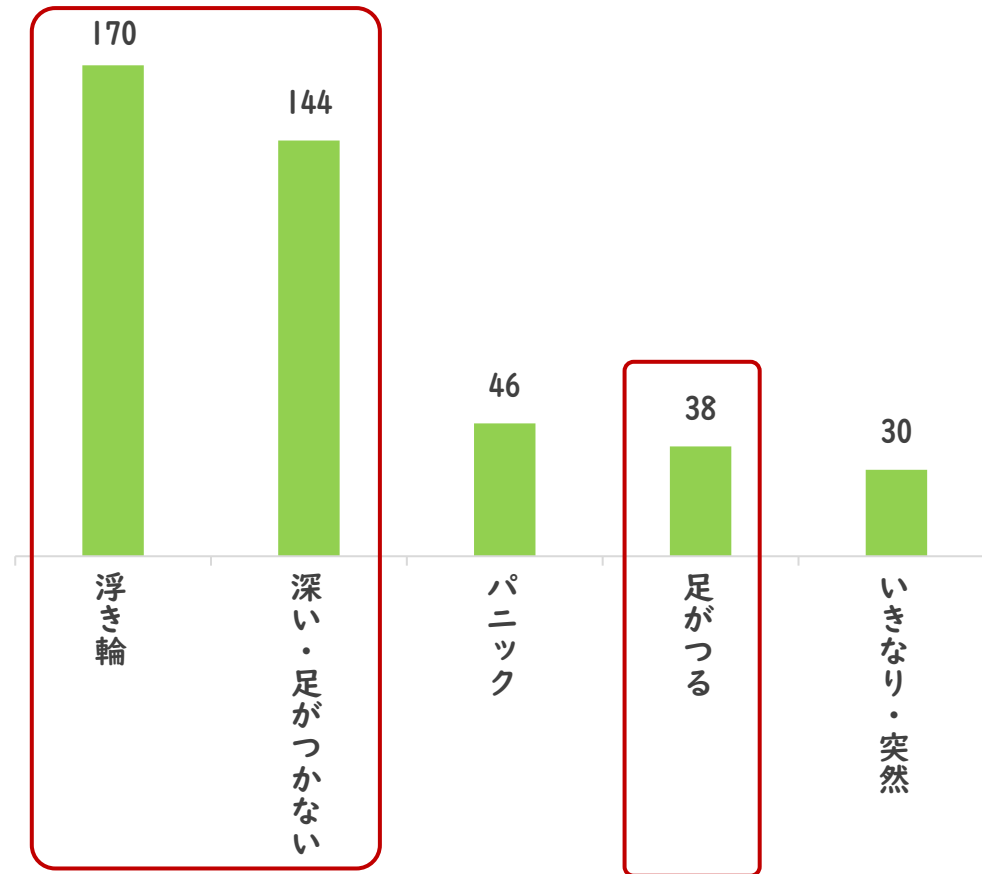


Fig. XX 関連キーワード件数

足に関する事象として「足がつる」も38件上がっている。

浮き輪の事例では、「浮き輪からの脱落」「風や離岸流に流される」「浮き輪への過信と油断」「使用方法の誤り」が代表的であった。

浮き輪からの脱落

■ 浮き輪が大きく波で浮き輪から抜けてしまい溺れた

波が高くなると浮き輪自体が不安定になり、乗っている人が体勢を崩すことがある。脱落した際に浮き輪が離れてしまうと、体を支えるものがなくなるため、パニックに陥りやすくなる。

■ 浮き輪の空気が少しずつ抜けていた

急な衝撃による破裂や、素材が劣化によりに空気抜けが起こった際には、浮き輪の浮力が低下し、浮いていられなくなる。同様にパニックに陥り、溺れる危険性が考えられる。

風や離岸流に流される

■ 浮き輪で遊んでたら沖にどんどん流されて慌てた

浮き輪は水面に浮かぶため、風や潮流の影響を強く受けやすい。気づかぬうちに海岸から離れてしまい、もとの場所に戻れなくなることがある。無理に戻ろうとすると疲労が蓄積し、体力が消耗して溺れる危険性が考えられる。

浮き輪への過信と油断

■ 浮き輪をしていたので安心していましたが、自分の思う方向へ進むことができず……

「浮き輪があるからなんとかなる」という安易な思い込みから、安全確認を怠り、沖へ流される→ようやくのことで岸が遠くなってきたことに気づき、慌て、浮き輪を放って泳ぐ→溺れるといった危険性。

また、浮き輪に乗っているから大丈夫であろうと、浮き輪に乗っている同行者から目を離してしまい、その間に同行者が流されてしまうという事例も確認されている。

着用型浮き輪の誤用

■ 腕につける浮き輪を足に付けて溺れ、兄に助けられた

アームリング付き浮き具を誤って前後逆向きで着用し、溺れる事故がある。

※逆向きに着用すると、うつぶせで顔を水につけた状態で浮いてしまい、体勢を変えることが難しくなる。

「足がつかない」「足がつる」など、水中での足のトラブルが溺れにつながるパニックを引き起こしている。

足がつかない

- 「浮き輪があるから大丈夫だろう」と、深い海の方へ行った
- 足がつかない場所で手元から浮き輪が離れてしまった
- 急に深くなって溺れそうになった
- ひいた波と一緒に足がつかない場所に移動してしまい……
- 背泳ぎで浮かんでいたら足がつかない所にいて、慌てて溺れかけた
- 彼氏と一緒に海に行って、ちょっと深くて足がつかないところで、彼氏から離れた時に溺れそうになった！

足がつかない場所であることを認識し、サポートがある状態で遊泳しているパターンの場合、サポートから離れたことで溺れるケースが多い。

意図せず足がつかない場所に移動してしまった場合、足がつかないことに気づいた時にパニックを起こしてしまうことが多い。

足がつる

- 準備運動をあまりせず、沖まで出てから足がつって……
- 両足がつってしまって溺れそうになりました。前の日から水分補給してなかったのが原因ではないかと思います
- 飲酒した上で、準備体操もせずに、海に入った時、急に足がつって動けなくなり、溺れかけた
- 泳いでいたらどんどん沖に流されていき焦っていたら足がつって溺れた

冷えや水分の補給が正しくされていないことを起因とする場合、準備体操による血行の促進や水分補給といった事前の準備である程度は防げる可能性がある。

自身の限界に気づかずに足がつってしまう場合や、パニックを起こした時の、突発的に力んだり暴れてしまうことを起因とする場合は未然に防ぐことは難しい。

「ボール等の追いかけ」、「保護者等の不注意」、 「自らの泳力・体力への過信」に関する事例も少なからずあった。

ボール等の追いかけ

- ビーチボールを追いかけて溺れそうになった
- うきわをとりにいって沖まで行ってしまった

子どもがビーチボールや浮き輪など、流されたおもちゃを取りに追いかけて戻れなくなる事例

保護者等の不注意

- 大人がお酒を飲んでいて子供たちだけで泳いでいたから
- スマホに夢中になっていたら、子供が深いところまで行き溺れかけていました
- 子供から目を離しているすきに引き潮にもっていかれそうになった

監督者の不注意のうちに、波にさらわれたり、急に足がつなくなるほど深くなったり、浮き輪やボートが転覆したり、といった危険性

自分の泳力・体力への過信

- 泳げないのに、不用意に海に入ったので、溺れかけた
- 水泳はあまり得意ではないのですが、友達について泳いでいったら、思ったより深い場所にいてしまい、
- 体力を考えずに遠くまで泳いでしまっただけで溺れそうになった
- ムリして沖に出た時

波や離岸流、風の強さに対して自分の能力を過信したことで溺れてしまう、といった危険性

まとめ

- 本調査では、海での「ひやりとした経験」に焦点を当て、事故に至る前段階のリスク要因を明らかにした。
- 年代や性別によって、溺れかけた状況や行動には傾向の違いが見られ、それぞれに応じた予防アプローチの必要性が示された。
- 単なる「事故件数」だけでは見えにくい、現場のリアルな声を拾い上げることで、水辺での安全教育や啓発活動に新たな視点を提供できる。
- 今後は、本調査結果をもとに、具体的な行動指針や注意喚起の内容を検討・展開していくことが望まれる。